令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	45	学校名	県立清流館高等学校	校長名	山梨 祥子
------	----	-----	-----------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	思考力・判断力・表現力を伸ばし、主体的・対話的な学びを深めるとともに、課題解決に向けて探究的に取り組む態度を育む。	【教員の授業研修】 ・校外研修やオンラインセミナーに参加する教員80%以上、教員自身が学び続ける姿勢を持つことを自覚する(研修課)	・校外研修、オンラインセミナーへの参加者(教員)80.6%	B	・本年度から職員研修申込みに新たなオンラインシステムが導入されたため、システムへの不慣れも考えられる。マニュアル配布など、丁寧な説明を行っていく。 ・5回以上参加した教員が、昨年度の6.1%から13.9%に増加した。引き続き教員の意欲の後押しをしていきたい。
		【知識の定着】 ・「授業の内容がわかる」と答える生徒80%以上 ・「学ぶ面白さを感じた」と答える生徒80%以上 ・学びの基礎診断や模試の結果が学年、進路課で活用され、生徒が自己調整力を高める (教務課・進路課・学年部・教科)	・授業の内容がわかり、面白いと感じている(保護者)71.5% ・「学ぶ面白さを感じた」(生徒)80.1% ・教科の授業やSPで自分の考えを表現している(生徒)74.2% ・学びの基礎診断の結果を活用・改善につなげている。(教員)52.8%	B	・学ぶ面白さを感じる生徒の割合の目標は達成できた。一方で自分の考えを表現したと答えた生徒は74.2にとどまったので、自分の考えを表現する機会を増やし、生徒の自信を高めていきたい。 ・探究活動は相手を受容する機会や、自身の考えを伝える機会が多いが、各教科の授業においても、そのような場面設定ができればよいと感じる。
		【授業改善】 ・「何ができるようになるか」を意識した授業改善を行い、教員が生徒の興味・関心を高める授業を実践する。 ・授業等でICT機器を効果的に活用する教員の割合85%以上、 (教務課・情報管理室・研修課・教科)	・意識して授業改善を行っている(教員)94.5% ・授業等でICT機器を効果的に活用する(教員)83.3% ・(株)クルートから講師を招き、ICTを活用した授業改善の職員研修を実施した。	A	・生徒につけたい資質・能力を意識して授業改善を行うことができた。 ・ICT機器活用の場面が増えている。校内インフラをさらに整え、より一層効果的に使用していきたい。 ・学習支援ソフトを活用した課題配信を行い、生徒の学力向上につなげることができた

<p>【観点別学習評価】 教科内で共通理解のもと、観点別評価の実践と改善が行われている (教務課・教科)</p>	<p>・教科内で共通理解のもと、観点別評価の実践と改善が行われている (教員) 97.2%</p>	<p>A</p>	<p>・新課程完成年度で教員が観点別評価に慣れ、共通理解が深まっている。</p>
<p>【家庭学習の習慣化】 ・授業以外の学習を週5日以上行くと答える生徒の割合 60%以上、生徒が進路実現や自己目標達成に向けて努力している ・「自分なりの学習方法を身に付けている」と答える生徒 75%以上 ・「家庭学習等に ICT 機器を活用していると答える生徒」75%以上 (教務課・進路課・学年部・教科)</p>	<p>・お子様は家庭での学習が定着している。 (保護者)53.9% ・授業以外の学習を週5日以上している。 (生徒)31.4% ・自分なりの学習方法を身に付けている。 (生徒)68.3% ・家庭学習などに ICT 機器を活用している。 (生徒)55.5%</p>	<p>B</p>	<p>・家庭学習の習慣づけに大きな課題が残った。必要に応じ適切な質量の課題を出すとともに、家庭学習の重要性とやり方を丁寧にガイダンスしていくことが必要である。 ・進路実現に必要な基礎学力の定着や、総合型、学校推薦型選抜の受験内容(プレゼン、小論文)を踏まえ、低学年から家庭学習を定着させることが大切である。 ・ICT 機器の活用については、生徒に広く浸透している。さらなる学習の成果や効率について検証する必要がある。</p>
<p>【読書による学びの深化、心の成長】 ・1か月間の無読者30%以下、年間を通して読書時間を伸ばすことができる。 ・生徒「読書ノート」記入数 年5冊以上 ・読書が人の気持ちを考える、社会のことを知る、知識を得るなどに有用であると答える生徒75%以上 ・新書をはじめ、自ら興味・関心のある分野の本を読んだ生徒 75%以上 ・図書室講座の開催 (年6回) (図書課・学年部・教科)</p>	<p>・1か月に1冊以上、本を読んでいる (生徒) 72.5% ・読書が人の気持ちを考える、社会のことを知る、知識を得るなどに有用 (生徒) 78.5% ・興味・関心のある分野の本を読んだ (生徒) 64.7%</p>	<p>A</p>	<p>・多くの生徒が1か月に1冊程度の本を読んでいるが、親しみやすく、わかりやすい小説を読んでいる生徒がほとんどであるので、選書の幅を広げ、深く考える機会となるようガイダンス(2回)と「読書レポート」作成を実施した。 ・「読書レポート」は2年生対象に実施したが、「総合的な探究の時間」と連携して行い、社会探究の充実に役立てた。 ・図書室講座(自己PR・小論文)は、夏季休業中に集中して実施し盛況であった。図書室は異学年が集えるという利点が大きいため、次年度はグループ討論などの協働的な活動を主体とした講座の充実に図りたい。</p>

イ	自立的な生活習慣を確立し、互いを認め合い尊重する豊かな心を育む。	【基本的な生活習慣の徹底】 ・教員が率先して挨拶することで、「進んで挨拶ができる」生徒と教員の回答ギャップ 10%以内にする ・「正しい身だしなみ」生徒と教員の回答ギャップ 10%以内 ・SNS の適切な使用方法が身につけている生徒 100% (生徒課・学年部)	・挨拶できている (生徒) 83.3、(教員) 58.3% →差 25% ・正しい身だしなみ (生徒) 93.5% (教員) 47.2% →差 46.3% ・適切な SNS 使用 (生徒) 96.8%	B	・挨拶と身だしなみに関しては、生徒と教員の間認識のずれが大きく、改善が必要である。 ・SNS の使用に関しては、生徒アンケートにおいてはほぼ目標を達成したが、トラブルは継続的に発生しているため、引き続き注意が必要である。
		【特別活動の活用】 ・生徒による企画・運営が進んでいる。 ・委員会・係活動が充実している生徒 80%以上 (生徒課・学年部)	・委員会やクラスに係活動がしっかりできた (生徒) 95.4%。 ・清流祭 (文化祭・体育祭) が楽しかった (生徒) 95.7%	A	特別活動は生徒の主体的な参加と高い満足度を得ており、非常に良好な結果と言える。
		【部活動の運用】 生徒の自主性を引き出す部活動の運用 (生徒課)	生徒の自主性を引き出す活動を行っている (教員) 80.6% 部活が充実している (生徒) 87.4%	A	部活動の運用においては、教員の自主性を引き出す取り組みが生徒にも良い影響を与え、部活動が充実しているという結果が出ているので、引き続き継続していく。
		【交通安全教育・指導】 交通事故件数年 10 件以下 (生徒課)	・年間交通事故数 9 件。 ・交通安全の取組が、生徒の安全意識の高揚に繋がっている (教員) 72.2%。	B	1 学期の重大な事故発生により、警察交通課との連携や自転車交通違反カードへの指導等を見直した結果、目標の交通事故件数を下回る結果となった。こうした取り組みが生徒の安全意識向上に貢献している。
		【健康の保持及び増進】 ・生活リズムや食事など健康を維持することを意識している生徒 80%以上 ・治療勧告に対する受診率 75%以上 (保健課・学年部)	・朝食を食べている (生徒) 91.4% ・受診率 (R5) 33% → (R6) %	B	・R5 の 93.0% に対して若干低下しているが、今後も呼びかけを続けていく予定である。 ・R4 の 29.1% から比べると R5 で受診率は上昇しているが、今年度は再び低下している。長期的に見れば少しずつ受診率は上昇しているため、今後も呼びかけを続けていく。

		<p>【環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室等が公共の場として、安全で清潔な環境を整えることができる ・ごみの総量減少。分別されたごみ出しができています（保健課・学年部） 	<ul style="list-style-type: none"> ・教室が公共の場として整っている（生徒）91.9% 	A	<p>ごみの総量は減少しており分別についても事業系のごみの出し方の説明が守られている。</p>
		<p>【豊かな感性の醸成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芸術鑑賞教室の生徒満足度80%以上 ・事後アンケートにより効果と課題が共有されている（図書課） 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容について「とても良い」「良い」と回答（生徒）88.5% 	A	<p>演出、演者についてよく観察し演劇の醍醐味を味わった。本校を会場に実施したため、設営・撤収の補助の一部を生徒が担い、達成感や学校行事への貢献を実感できた。</p>
ウ	<p>社会の一員として貢献する自覚と高い志を持って、自らの進路を切り拓く力を育む。</p>	<p>選管による出前授業や模擬投票等の実施を通して、生徒が具体的に国や地域の課題解決への関わる気持ちを高めることができる（地歴・公民科）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・焼津市選挙管理委員会の出前授業で模擬投票を実施した。（高1） 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の投票資材を使用したり、模擬政党の政策を比較したりすることで、実際の投票への意識を高めた。 ・選挙権のある3年生に総選挙前に投票を呼びかけるアナウンスを行った。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向け進路ガイダンス3回以上実施 ・生徒・保護者向け進路講座年3回以上実施（進路課・学年部） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒向けガイダンス1年(12/4 実施) 2年(3/12 予定) 3年(5/16、8/23 実施) ・進路講座(12/14 実施)(2/22 予定) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の多様な進路に応えることや、学部学科等の学問に関心を持たせるようなガイダンスの形態を目指したい。 ・保護者向け進路講座も好評のため、継続していきたい。
		<p>修学旅行を通して「平和について意識が高まった」「各地域の自然や生活文化の違いへの理解が深まった」「他者を思いやる言動ができた」と回答する生徒 90%以上（2年部）</p>	<p>平和について意識が高まった（生徒）98.4%各地域の自然や生活文化の違いの理解が深まった（生徒）100%他者を思いやる言動ができた（生徒）99.4%</p>	A	<p>本校初の学年単位での沖縄修学旅行は、平和学習と体験学習に内容を絞ったことで充実感・満足感の高いものとなった。特に平和学習では真剣な態度で臨み、深い学びができた。事前・事後学習の充実と現地での時間配分が今後の課題である。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> ・3年生進路目標の実現の満足度90%以上 ・必要な進路情報が入手できていると答える生徒80%以上（進路課・学年部） 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な進路情報を手にすることができている（生徒）73.3% ・学校から進路選択や文理選択等に参考となる情報が入手できている（保護者）70.9% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、オープンキャンパス情報は、クラスルームにアップし、生徒が常に閲覧できるようにした。 ・需要の多い県内上級学校については来年度も生徒昇降口に掲示する予定である。
エ	<p>教育諸活動に係る生徒への支援体制の充実を図り、「信頼される学</p>	<p>スクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づく、教育活動の円滑な運用を行う（副校長）</p>	<p>スクール・ミッション、スクール・ポリシーに基づいて、各課室科が重点目標を作成し、教育活動を行った。</p>	B	<p>本校の教育活動の拠りどころとして、引き続き教職員への理解を促していく。</p>

様式第3号

校」づくりに
努める。

<p>多様な教員の経験値を生かす職員研修の実施とチームプロジェクトを充実し、生徒や保護者の困り感等の緩和や若手教員のスキルアップに繋げる(研修課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・喫緊の教育課題に対応した職員研修が実施されている(教員) 58.4% ・特別支援教育に係る全体研修を実施した。 ・チームプロジェクトを立ち上げ、学校広報動画や学校公開用ポスターの作成を行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も本校の教職員にとって有用となる研修を企画していく。 ・学校公開時のアンケートで、66.2%がホームページ、掲示物(ポスター)で開催を知ったと回答しており、チームプロジェクトに一定の成果があった。引き続き同様の広報活動を行っていく。
<ul style="list-style-type: none"> ・定例の会議に加え、必要に応じて随時ケース会議を行い迅速な対応態勢が整えられる。 ・SC や外部専門機関とのスムーズな接続がとられている(相談室・学年部) 	<p>相談室情報連絡会議を年7回、特別支援教育委員会を年5回、さらに、個別ケース会議を開き、SC、SSWの助言をもとに迅速な生徒・保護者対応をすることができた。</p>	A	<p>会議には必要に応じてスクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)も参加し、生徒・保護者面談にも同席していただき的確な助言をいただき効果的な支援をすることができた。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・会計研修実施年1回以上 ・適正かつ効果的な予算配分及び計画的な予算執行が行われている(事務室) 	<ul style="list-style-type: none"> ・5月の職員会議にて実施した。 ・各分掌からの要望に対し、可能な限り対応した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を通して、全職員の共通理解を図る機会とすることができた。 ・学校経営予算が縮小され、施設設備の不良に見舞われる中、適正に予算執行にあたることができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルの活用促進 ・校内防災訓練で防災意識が高まった生徒 80%以上 ・総合防災訓練又は地域防災訓練の参加生徒延べ300人以上(総務課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議で危機管理マニュアルの読み合わせを実施した。 ・校内防災訓練を6/5(水)と11/6(水)に実施した。6月の訓練では避難前に南海トラフ地震の被害予測や臨時情報についての動画視聴で意識を高めた。 6/6(木)に「防災訓練で防災に対する意識を高めることができましたか」というアンケートを実施した。「できた」56.3%、「まあできた」40.6%。 ・地域防災訓練の参加者は165人、不参加者は410人であった。不参加理由は未実施42人、参加対象外36人、学校教育活動との重なり74人、個別の事情58人、参加する意思がなかった200人であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月に実施された学校生活アンケートの「防災意識が高まった。」という質問に対して、防災訓練直後のアンケートに比べ、生徒の防災意識の低下がみられた。日々の啓発が必要である。 ・地域防災訓練の参加を校内でさらに呼びかけるとともに、地域との防災連絡会議において高校生の参加率を向上させるための対応策を協議したい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 広報紙「清流館だより(5月)」を発行し、魅力を周知している ・学校広報の充実 ・学校公開(年2回)参加者の満足度90%以上 ・新ホームページ移行への対応(総務課、研修課、教頭、副校長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「清流館だより」と学校案内パンフレットを発行し、PTA Instagramでは定期的にPTA活動と学校の様子を発信している。 ・学校公開(8/2(金)、11/9(土)) <p>参加者数</p> <p>R 5 夏 1018人 R 6 夏 1028人 R 5 秋 522人 R 6 秋 521人</p> <p>参加者の満足度</p> <p>R 6 夏 96.1% R 6 秋 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Instagram フォロワー数 <p>R 5 約2800人 R 6 約3800人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校公開参加者の増加を目標とせず、高い満足度を継続していくことを目標としたい。そのため、参加者アンケートに寄せられた要望に応え、改善を図っていく。 ・保護者の81.4%が「ホームページ、Instagramで学校の様子を知る」と回答しており、大切な広報のツールになっている。

オ	<p>「総合的な探究の時間」を柱として、外部との連携による学習機会の充実を図り、地域社会のリーダーとして活躍する人材を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上級学年では実践や提案に繋がる探究を行う。また、探究を通して志望理由書等の進路資料作成スキルを向上させている ・年1回以上、探究活動発表会を実施し、年1回以上、校外での発表会に参加する (進路課、教務課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、計画通り実施した。夏期にオンラインで上級生から探究の趣旨や分析方法について説明してもらった。教員の指導もあり、探究発表が下級生の模範となり、活発な活動に繋がった。 探究活動を通して外部と繋がることで社会貢献の姿勢がうまれた。 ・総合的な探究の時間に積極的に取り組んでいる(教員) 75% 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、探究活動をとおして、情報発信力や協働する力、プレゼン資料の作成能力等を向上させることができた。 ・学年部と連携して、しずおか高校生探究フェスタへ参加(校外の発表会)した。
		<p>企業講話とキャリアデザイン講演会の実施(進路課)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生で実施した。生徒が地域社会との関わりを持つことができた。多くの生徒が企業と協働について関心を示し、企業の地域に対する課題を自身の課題として捉え、積極的に関わろうとする姿勢が見られた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と業種を変え、1つの行政機関、4つの企業から講師を招聘し、講演を実施した。来年度も継続して実施したい。
カ	<p>周囲との協調性を重視し、他者の人格や人権を尊重する豊かな人間性を備え、多様な他者と協働して活躍する人材を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・悩み事を相談する人が一人でもいると回答する生徒80%以上 ・相談室と連携して校内でのいじめを撲滅する(生徒課・相談室) 	<p>学校には困ったことや悩み事を相談できる人が一人でもいる(生徒)88%</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・悩み相談の体制について、目標をほぼ達成しており、良好な結果である。 ・いじめについて、いつでもどこでも起こりえることを前提に、いじめ対策委員会を中心に、相談室等と連携した取組を継続していく。
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒間、生徒・教職員間で場に応じた適切な言動と距離感の保持ができていると回答する生徒・教職員100% ・学校生活が充実していると回答する生徒80%以上(生徒課・学年部) 	<p>生徒同士、生徒・教職員間でその場にふさわしい会話や行動ができる(生徒)95% 学校生活が充実している生徒(92.5%)</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な人間関係の構築については、目標にはわずかに届かなかったが、生徒間、生徒・教職員間の関係性は良好である。 ・学校生活の充実度は、9割以上の生徒が肯定的な回答をしており、生徒にとって居心地の良い学校環境が実現できている。

キ	福祉・介護に関する知識及び技能を高め、持続可能な共生社会の担い手としての人材を育む。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士国家試験の組織的指導体制づくりが進む ・施設実習及び介護技術コンテスト等を通して、技量や意識を高めている(福祉科) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間で専門分野を担当し、国家試験対策に当たった。 ・各専門分野を担当しながら組織的体制の下、指導することができた。 ・模擬試験の結果等から危機感をもった生徒たち自ら主体的に協力し合って学習に取り組む様子が見られた。 ・各学年とも施設実習を実施した。 ・普段の授業における基本的技術の習得が生かされ県大会で優秀賞となり、東海大会出場を果たすことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験に向け、学習意欲が上がらない生徒に対する指導方法を引き続き模索する必要がある。 ・介護技術コンテストへの参加を通して、福祉科の生徒としての意識向上に繋げていきたい。
		ボランティア、社会貢献活動に参加する生徒60%以上(福祉課・生徒課)	<p>今年度、校外へのボランティア活動に参加した(生徒)</p> <p>76.8%</p> <p>福祉科や部活単位に留まらず、個人でもボランティアを行う生徒が見られた。</p>	A	<p>生徒のボランティア・社会貢献活動への参加意欲は高く、積極的に活動に取り組んでいる。</p> <p>地域の福祉施設やイベントのボランティア情報を適切に生徒に情報提供し、参加を促していきたい。</p>
ク	教職員の多忙化への対応を進め、業務分担のバランスをとり、業務引継ぎが円滑に行われる体制づくりを進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌における業務の見直し及びスリム化への取組100% ・業務引き継ぎ資料が整備され、業務継承に活用されている ・教員一人あたりの時間外労働時間を昨年度より削減する ・定時退庁日に帰宅しやすい環境となっている ・夏季休暇取得率100%(副校長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の見直しやスリム化の実践(教員)72.2% ・勤務時間を意識した働き方を心掛けている(教員)69.4% ・お互いに声を掛け合い協力して業務にあたっている(教員)94.4% ・相談できる同僚が一人以上いる(教員)91.7% ・夏季休暇取得率100% 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を経て、業務の見直しや削減が進んでいるので、引き続き学校全体で業務改善に取り組んでいきたい。管理職は、教員が本来担うべき業務に集中できる環境を引き続き整えていきたい。 ・法定労働時間をどのようにマネジメントするか、教職員が自ら考えるように管理職が指導していきたい。